

エム・デー・ビー株式会社

近年、山岳登山者が増加傾向にあり、それに伴い道迷いの通報者が増加しているため、救助側に負担がかかっています。登山者および消防・警察双方に安全かつ効率的な搜索・救助が行えるようドローンを使用した搜索システム及び AED・AID キッド等を搬送するシステムの研究開発を行っています。

実施期間：2017年度～2019年度 実用化計画開発実施場所：広野町

自律型ドローンロボットにより山岳救助を劇的に効率化する「搜索支援システム」の開発実用化事業

現状・背景

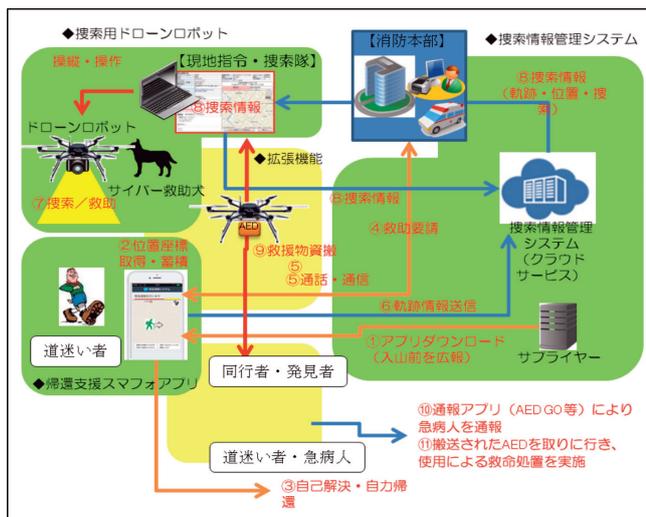
技術課題としては、災害大国である日本において、いかに安全かつ迅速に搜索・救助を行え、簡易的なオペレーションのみで利用できるシステムを提供できるかが大きな課題となります。研究の現状は、実装レベルでは若干の改修はあるものの、実用化後の運用・保守面を考慮したシステム改修フェーズに入っています。

研究（実用化）開発の目標

平成 32 年度より営業活動を行う予定であり、営業、保守・運用スタッフとして浜通り地域内で初年度 3 名、2 年目 3 名の雇用を目標としています。

研究（実用化）開発のポイント・先進性

山岳で実証可能なシステムであれば、全ての情報収集活動において流用が可能と考え、あえて難易度の高い山岳救助をターゲットにし、開発を行っています。またドローンから上空、陸上からはロボットでは判別できない嗅覚を持ったサイバー救助犬をシステム連携させることにより、情報収集、救助者発見までの一連の救助活動を効率化できるシステムです。更に遭難者向けにも自律帰還機能及びシステム連携機能を持ったスマホアプリを開発することにより、救助者のみならず遭難者の支援も考慮したトータルパッケージとなっています。



本イメージの概要は下記これまでに得られた成果に記載

浜通り地域への経済波及効果（見込み）

5 年後までに本事業における新規雇用予定者数 10 名（広野事業所 ふくしまデジタル・コンテンツ・センタのみ）

これまでに得られた成果

- ①帰還支援スマートフォンアプリ：登山者向けの自律帰還 AR 機能等
- ②搜索情報管理システム：リアルタイム映像 LTE 伝送映像管理含む搜索情報管理システム
- ③搜索ドローン用搭載システム：全システムメインコントローラ
- ④物資運搬用搭載システム：全システムメインコントローラ
- ⑤グランドコントロールアプリケーション：PC 用アプリケーション

開発者からの浜通り復興に向けたメッセージ



エム・デー・ビー株式会社 マネージャー 小澤 隆司

震災からの復旧が進んでいますが、地方において人口減少問題が大きな課題となっています。その対策として魅力ある雇用を産むべく地域全体で連携し、連続的なイノベーションが起こる浜通り地域となれば流入人口も増え、課題解決の一つの強みとなると信じ、弊社では取り組んでいるので、同じベクトルを向いた企業と連携・協力して行きたいです。